

イズミグループ
社会・環境報告書 2017
ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT

ゆめの未来の、その先へ



you
me

Contents

「平成28年熊本地震」から学ぶ
**地域に寄り添い、共に歩み続ける
 小売業の使命** 2

トップコミットメント
 株式会社イズミ 代表取締役社長 山西 泰明 5

イズミの4つの夢

お客さまに便利で快適な暮らしを

設備も接客も安全を重視 7
 子育て世帯をサポート 9

地域に活気を生み経済効果を

活力を生むスポーツ振興 11
 行政・市民と連携し協働を 13

テナント様にさらなる成長の機会を

交流を深めて共に前進を 15

社員に人間的成長とやり甲斐を

誰もが活躍できる環境を 17
 充実の研修で能力発揮へ 19

イズミのエコ・アクション

1 設備を刷新する 22
 2 店舗で改善する 23
 3 地域と協力する 25

イズミのCSR

業務の基本 コンプライアンス規定 27
 株主・投資家の皆さまとの対話 28
 コーポレート・ガバナンス体制 29
 リスクマネジメント・内部統制教育 30

社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針

イズミでは、CSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。

報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーのみなさまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。

【最新情報について】イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。URL <http://www.izumi.co.jp/>

●報告書の発行

今回の発行
 2017年5月(2016年3月1日~2017年2月28日の取り組み内容)
 ※一部、2016年3月以前、2017年3月以降の取り組みについても報告を行っています。

次回の発行予定
 2018年5月(2017年3月1日~2018年2月28日の取り組み内容)

●報告書の対象

株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。

●対象読者

お客さま、店舗の近隣住民のみなさま、行政、お取引先様、株主のみなさま、学生、NPO、NGO、投資家のみなさま、従業員など



営業再開当日、お客さまの長い列ができた「ゆめタウンはません」

「平成28年熊本地震」から学ぶ

地域に寄り添い、共に歩み続ける 小売業の使命

マグニチュード7.3の激震に耐え、4,000回を超える余震にも負けず復興への道を進む熊本のみなさま。私たちイズミも地域と共に歩む小売業として、熊本が一日も早く元気を取り戻せるよう、精一杯の活動を続けています。



安全を確認し営業再開した「ゆめタウン光の森」



営業再開にぎわう「ゆめタウンサンピアン」



力を尽くした「ゆめタウンはません」の従業員

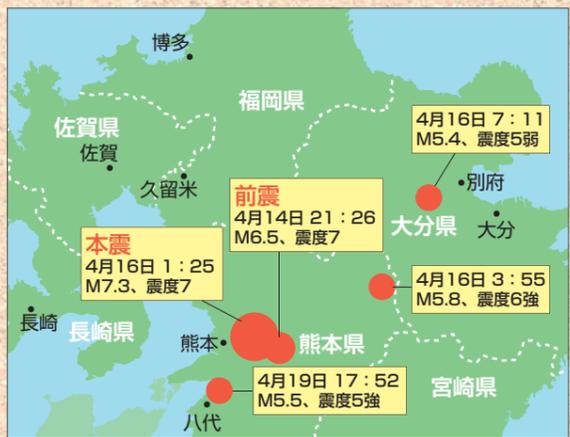
2016年4月14日の前震と、16日の本震という2度の大きな揺れが甚大な被害を引き起こした熊本地震。断続的な余震が続く中、避難所に身を寄せる人は最大約19万6千名に増え、車中泊を余儀なくされる人も目立ちました。熊本県内33店舗で働くイズミグループの従業員も多数被災する中、私たちイズミは何をするべきかを考え、実践してきました。「生きていくために欠かせない品々をお届けする」と

いう重要な役割を果たすため、従業員は全力で復旧作業に当たりました。今か今かと営業再開を待ち望んでいたお客さまからいただく、心からの「ありがとう」という言葉に、従業員一同、大いに励まされました。長期休業した店舗の再オープンが「復興のシンボル」に。従業員はお客さまと喜びを分かち合いました。私たちはこれからも小売業として地域に寄り添い、地道な復興への貢献を続けていきます。

地域に寄り添い、共に歩み続ける小売業の使命



長い行列ができた「ゆめタウン大江」



主な地震の規模と震源地。これ以外にも無数の余震が起きた

届ける

行政と協働、必要な物資を届ける
熊本地震の前震が発生したのは4月14日午後9時26分。イズミでは「災害時における物資協定」を締結している熊本県と熊本市から要請を受け、翌15日に物資供給を開始しました。道路の寸断や渋滞はありましたが、同日中にお届けできたおむすびやパン、飲料などは57,880個。万が一に備えて各地で締結してきた協定を生かし、緊急時に地域のみなさまのお役に立てたことは幸いでした。

守る

営業を再開し生活を守る
14日の前震、16日の本震で、商品の落下や床のひび割れなどが多数の店舗で発生しました。イズミの方針は、「安全が確保できた店から、一刻も早く営業を再開する」。本社の熊本地震対策本部と現地スタッフが連携し、迅速な対応を取りました。本震から一夜明けた17日にオープンした「ゆめタウン大江」では、開店を待ちわびた800名のお客さまが行列に。水やパン、おむす、ゴミ袋などの必要な品々を手にして、ホッとされるお客さまの姿。あるお客さまの「売ってくれてありがとう」の一言に、胸を熱くした従業員もいました。「買物をしている間は、地震を忘れられる」という声もあり、非常時においては「店が開いている」ということ自体がお客さまの安堵につながるのだと、私たちは教えられました。

感謝する

たくさんの協力に感謝する
多くのお取引先様から、過分のご支援いただきました。断水中の店舗にタンクローリー車で届いた数千リットルの水、復旧応援者のための宿泊施設提供、水や食料などの支援物資などに助けられ、営業再開に向けた大きな力になりました。
テナント従業員のみなさまにも営業再開に向けてご協力をいただき、イズミ従業員と力を合わせ、お客さまのためにご尽力いただいたことに感謝しています。

生かす

経験に学び、将来に生かす
従業員の多くが避難所やマイカーで夜を過ごし、頻発する余震に怯えながら「お客さまの役に立ちたい」という思いで売場に立ちました。ライフラインを守るという小売業の使命が、従業員のエネルギーになりました。そんな従業員の皆さんを、イズミは安定した雇用や見舞金の支給、カウンセリング制度などで支えています。
熊本地震から1年が過ぎ、熊本の従業員には「当たり前のごことに感謝し、日々の仕事に真心を込める」という姿勢が生まれています。今回の経験をしっかりと胸に刻み、地震を直接経験していない従業員も教訓を共有し、地域とともに歩む企業として、熊本の復興に今後も力を尽くしていきます。

備える

万が一の災害に備える
いつ起きるか分からない災害に備えて、イズミでは熊本地震での取り組みを総括し、「事業継続計画」(BCP)を修正しました。独自の安否確認システムを導入したほか、従業員に常時携帯用の「災害対策ポケットメモ」を配布し、非常時の行動マニュアルを共有しています。生命を守ることを最優先に、迅速に復旧・復興に向けた行動に移れるよう、これからも対策を練っていきます。



イズミ本社の災害対策本部



おにぎりを豊富に準備した「ゆめタウン田崎」



従業員のサポートを重視

常時携帯用の「災害対策ポケットメモ」

災害対策ポケットメモ

本ポケットメモは、従業員や社員の行動指針として、熊本地震発生時の、災害対応方法などの基本事項を記載している。大規模地震などの広域災害発生時に、店舗かつ避難所・避難所となる事ができるように、地域により対応可能な、対策が記されている。

災害発生時の「社員」の行動指針

1. 自身の安全確保
自身の安全確保を最優先とし、被害の拡大防止に努める。
2. 地域社会への安全確保への協力
地域社会への安全確保に協力し、被害の拡大防止に努める。
3. 重要情報の確認(お客様情報)

熊本の復興に今後も力を尽くしていきます。

イズミグループ

地震発生直後からの記録

2016年														2017年											
4月														5月		6月		7-8月	9月		11月	4月			
14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	18日(月)	19日(火)	20日(水)	21日(木)	22日(金)	23日(土)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)	29日(金)	30日(土)	5日(木)	17日(木)	20日(日)	2日(木)	12日(日)	14日(火)	1日(木)	29日(水)	30日(木)	
前震発生 午後9時26分ごろマグニチュード6.5	本部 店舗 物資 応援 調査	本震発生 午前1時25分ごろマグニチュード7.3	本部 店舗 物資 募金 安否 店舗 交通 調査 応援																						



トップコミットメント

「夢」を絆に、一步一步前進を 信頼される「1兆円企業」をめざして

「必要なものを、必要としている人へ」。平成28年熊本地震では、小売業の原点を再確認しました。余震におびえながら「水を」「赤ちゃんのおむつを」と、生きていくために欠かせない品々を求める地域のみなさまのために、私たちは営業再開へ全力を尽くしました。自らが被災しながらも懸命に働いた従業員の姿は、経営理念のトップにある「お客さま満足度No.1をめざします」という言葉そのもの。お客さまの「ありがとう」の一言に胸を打たれ、さらに能動的に行動したことは「働き甲斐のある企業をめざします」「エキサイティングカンパニー実現をめざします」という言葉に通じます。従業員が災害時においても経営理念を実践し、相手の喜びを自分の喜びとして行動できたことは誇りです。熊本県は、イズミグループの33店舗がお世話になっている“第二の故郷”。今後も継続的な復興支援に力を入れていきます。

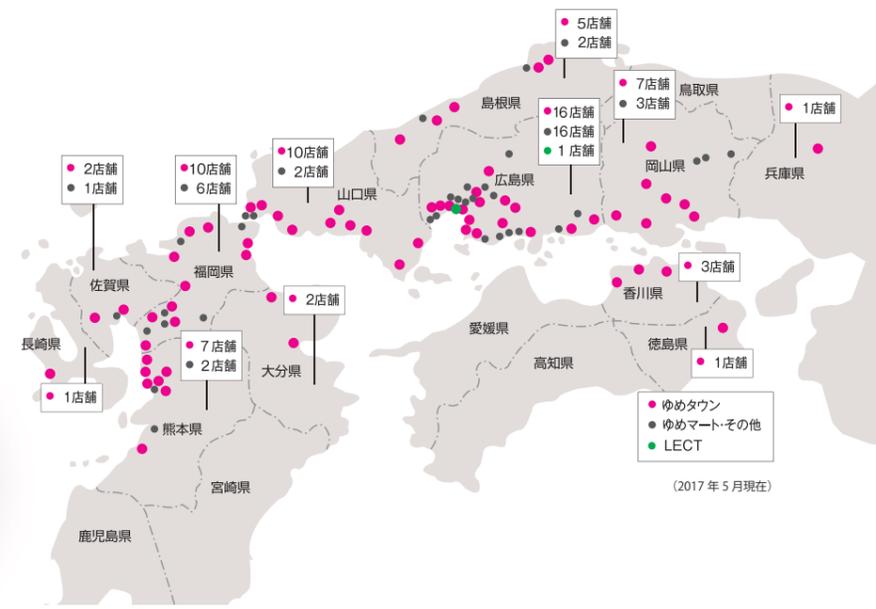
イズミには「4つの夢」があります。第1にお客さまには、より便利で快適な暮らしを享受していただくこと。高品質な商品とサービスの提供の一環として店内に休憩用のソファを配置するなど、くつろぎの空間づくりにも力を入れてい

ます。第2に地域に経済効果をもたらし、活気を生み出すこと。2016年には山口県や周南市と地域包括連携協定を締結、私たちの店舗を地域のつながりの拠点としてご活用いただけるよう、行政と連携を進めます。第3に、テナント様やお取引先様に、さらなる発展をしていただくこと。「ゆめタウン」が新たな成功事例をつくる場となるよう、サポートに取り組んでいます。第4に、社員の人的成長です。意欲ある人が活躍できる人事制度や、能力を高める教育制度の整備を進めています。「4つの夢」に加え、株主のみなさまへの還元や自然保全などを強化し、イズミと関わる全てのステークホルダーのみなさまと共に前進することを、私たちはお約束します。

2020年に向けてイズミが挑んでいるのが「夢のある1兆円企業をめざす」という大きな目標です。単に売上を伸ばすだけでなく、1兆円企業にふさわしい信頼を積み重ねるために、従業員一人ひとりが真摯に努力しています。さまざまな社会的責任を果たしながら、未来へと確かに歩いていく私たちイズミに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社イズミ
代表取締役社長 山西 泰明

| イズミ経営理念 |



イズミの4つの夢

お客さまに 便利で快適な 暮らしを

日々の食材をお買い求めいただく時も
週末に家族でゆっくり来店いただく時も
高品質な商品とサービスをお届けしたい。
より便利で快適な暮らしづくりへ
店舗の隅々まで工夫をしています。

dream number

ご自宅や職場、 学校に次ぐ **第3**の居場所

知・食・住を集約した新業態 「LECT」が2017年4月28日オープン

自宅や職場、学校とは別の「第3の居場所(サードプレイス)」をめざす新業態「LECT」が広島市西区にオープンしました。店名は、メインテーマであるLiving(住)、Eating(食)、Culture(知)と、Town・Time(街・時間)の頭文字にちなんでいます。「食」はイズミ、「知」は書籍を中心とした生活提案ショップT-SITE。「住」は工作室を備えたホームセンター・カインズ。この3つのキーテナントを中心に、約1,000席のフードコートなども設け、朝、昼、夕、夜、いつ訪れても快適で、心豊かに楽しく過ごせる空間が目標です。



1階中央の開放的なフードコート



お客さま

に便利で快適な暮らしを

設備も接客も
安全を重視

ハードとソフトの両面で、お客さまへの配慮を徹底

バリアフリー化を推進

2000年以降に開業した店舗は、すべてバリアフリー新法対応施設です。お身体のご不自由なお客さまのお買物をお手伝いする「エスコート係」を配置するなど、ソフト面でも対応を充実させています。



広島県思いやり駐車場



商品選りをお手伝いする「エスコート係」

品質管理やルールを徹底

食の安全・安心をお届けするのは、食品販売企業の基本です。全店に、外部の準公的機関((財)日本冷凍食品検査協会・日冷検)の指導を受けた品質チェッカーを配置。毎日午前11時と午後3時に品質鮮度と産地表示を確認しています。管理職向けの表示勉強会なども定期的で開催しています。



表示のルールを学ぶ商標法・景品表示法勉強会

「お客さまの声」に迅速・誠実な対応

イズミではよりよい店づくりに役立てるため、店頭「お客さまの声」の用紙にお書きいただいたご意見や、本社「お客さま相談室」あてにいただくお申し出を大切にしています。イズミ本社の「お客さまの声をお聞きするプロジェクト」メンバーがご意見を集約、例えば「ひな祭り用ケーキに保冷剤を付けてほしい」といったご要望などにスピード対応しています。



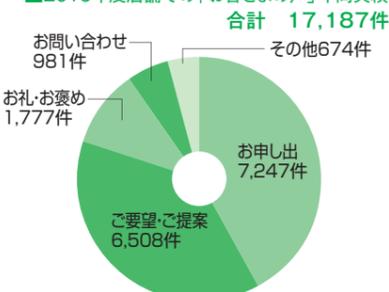
「お客さまの声をお聞きするプロジェクト」メンバー

■2016年度フリーダイヤル年間実績



※「ゆめタウンはません・サンビアン」専用フリーダイヤル含む

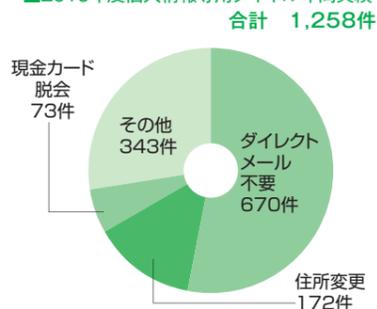
■2016年度店舗での「お客さまの声」年間実績



個人情報を適切に保護

店舗では、会員カードへのご記入やギフトの発送、商品予約などで、ご住所やお名前、電話番号などの個人情報をお預かりすることが多いため、個人情報の保護に向けてプライバシーポリシーを制定しています。お客さまにご安心いただけますよう、全従業員に周知徹底を図り、ルールに沿った管理を行っています。

■2016年度個人情報専用ダイヤル年間実績



イズミの4つの夢
お客さまに便利で快適な暮らしを

子育て世帯をサポート
楽しい学び、快適な時間をお子さまに

社会科見学・職場体験を店舗で実施

各地の「ゆめタウン」「ゆめマーケット」ではお子さまたちの社会見学を受け入れ、支配人や店長をはじめとした従業員が売場やバックヤードを案内しています。また、職場体験の受け入れも行い、実際に商品整理や販売に取り組んでいただきました。こうした機会を通じて、お子さまたちにいろいろなことに関心を持ったり、工夫して売場をつくる様子に興味を持っていただいたりして、社会人への第一歩になればと考えています。



「ゆめタウン武雄」での社会見学の様子



日用品売場で職場体験

青果売場で「5ADAY」

「5ADAY」は、「1日5皿分(350g)以上の野菜と200g以上の果物を食べよう」と提唱する運動です。イズミでは、店舗で食育体験ツアーを開催し、お子さまたちに「5ADAY」を紹介しています。主な内容は、青果売場を舞台にした買物ゲームや、栄養バランスの学習、簡単な調理など。好き嫌いを克服したり、食生活を見直す契機として喜ばれています。



栄養バランスについて学習

田植え・稲刈りやイモ掘り体験

農業や食について、親子で楽しく学んでいただく場が「広島県豊栄産こしひかり産地交流会」です。JA全農ひろしまさまのご協力をいただき、東広島市豊栄町の田んぼで、初夏には田植え、秋には稲刈りを体験していただいています。慣れない田んぼでの作業に汗を流したり、農家のみなさんに米作りの苦労を聞いたり、毎年、充実した時間を過ごしています。

「イモ掘り体験イベント」も大変好評です。土の中から大きなサツマイモを掘り出そうと頑張るお子さまたちと一緒に、お父さん、お母さんも収穫を楽しみました。



青空の下で開催された稲刈り交流会



鎌で稲刈りをしました



大人も子どももイモ掘りに夢中

「朝食づくり」を表彰

広島県の「子ども未来づくり・ひろしま応援隊」が主催する「つくってみようよ! 自分の朝ごはん」の表彰式が2016年10月30日に行われました。小学生が夏休みに5日間、自分で朝ご飯を作る企画で、朝食の大切さや親子のコミュニケーションを応援しています。イズミも協賛企業として参加しました。



賞状を授与した営業企画部長の田中寿喜

「赤ちゃんのえき」「遊び場」を整備

「赤ちゃんと一緒にゆっくり過ごしながら授乳やオムツ交換ができる空間を設置しています。そのほかにも、キッズ用トイレ、無料の遊び場、お子さま用カートなどを整備し、親子で楽しく過ごせる店づくりを進めています。



「ゆめタウン徳山」の「赤ちゃんのえき」



「ゆめタウン廿日市」の遊び場

大型絵本で読み聞かせ

2016年9月24日、「ゆめタウン廿日市」で特定非営利活動法人キッズNPOによる読み聞かせが行われました。はつかいち市民図書館が推薦する大型絵本は、絵が美しく迫力たっぷり。臨場感あふれる朗読と共に、たくさんの親子が物語の世界を満喫されました。午前11時、午後1時、午後3時の3回の開催で、いずれも多くのお客さまにお集まりいただきました。



たくさんの親子連れてにぎわいました

福祉施設へサンタが登場

2016年12月22日、「広島西子ども発達支援センターくれよん」に「ゆめタウン廿日市」の従業員がクリスマスプレゼントを届けました。同センターは、一人ひとりの発達に合わせた支援を行う施設です。サンタクロースに変身した従業員2名は、陽気なダンスを披露。保護者のみなさまとも一緒に、楽しいひとときを過ごさせていただきました。



サンタクロース姿で訪問

養護学校の販売会を開催

2017年2月18日、「ゆめタウン益田」で毎年恒例の「ますようDE かつちゃん祭」が行われました。益田養護学校のみなさんが作業学習で心を込めて作ったお菓子や陶器などが人気の的。2017年2月3日には、うれしの特別支援学校のみなさんのバザーを「ゆめタウン武雄」で開催。多くのお客さまが足を止めて、作品を購入していただきました。



益田養護学校の販売会の様子

お客さま

に便利で快適な暮らしを

CSR
key person

イベントも積極的に開催します

「ゆめタウン」のコンセプトは、三世代で1日ゆっくり過ごせる場所。「ゆめタウン廿日市」では、キッズトイレや授乳スペース、遊び場などのスペースを設置しています。また絵本の読み聞かせなどのイベントも積極的に開催し、いつ行っても楽しい店づくりを進めています。

ゆめタウン廿日市支配人
沼本真輔



イズミの4つの夢

地域に 活気を生み 経済効果を

地元チームの応援もコミュニティづくりも
その街に暮らす皆さんとご一緒に。
私たちの店舗を、防災の拠点や
利便性を高めるスポットとしても機能させ
にぎわいのある街づくりに貢献していきます。

dream number

日本ハンド
ボールリーグ

8回優勝の強豪

「広島メイプルレッズ」を 地元行政と連携し強力サポート

広島県を代表する女子ハンドボールチーム「広島メイプルレッズ」。日本ハンドボールリーグで8回優勝するなど、全国でも強豪として知られています。イズミがメインスポンサーとしてサポートしていることから、イズミグループ企業で働く選手も多数所属。従業員の模範になっています。

2016年に広島市東区役所から「区を挙げて応援したい」という声をいただき、地元のファンが増加中です。キャプテンの高山智恵が一日東区長に任命されるなど、地域との交流がますます盛んになっています。



抜群のチームワークで勝利



地域

に活気を生み経済効果を

活力を生む
スポーツ振興

サポーターと一緒に、地域のスポーツを応援します

広島東洋カープ 25年ぶりリーグ優勝に歓喜

イズミは、広島東洋カープのオフィシャルスポンサーです。毎年、MAZDA zoom-zoom スタジアム広島でゆめタウンスポンサーゲームを実施するなど、息の長い応援を続けてきました。

2016年は25年ぶりのリーグ優勝の喜びを、地域の皆さまと分かち合いました。「ゆめタウン廿日市」では試合中継を放送し、優勝決定の瞬間を多くのお客さまと見守りました。「カープ優勝記念ゆめか」を発行した際は、整理券を求めて長い列ができるなど大盛況に。2016年11月23日にはカープファン感謝デーに協賛。「ボールリレー選手権」を開催しました。



カープファン感謝デーに協賛



「カープ優勝記念ゆめか」が大人気



「ゆめタウン廿日市」で試合中継を放送

福岡でスポンサーゲーム

福岡市に拠点を置く福岡ソフトバンクホークスを、イズミは地域貢献の一環として支援しています。2016年5月12日には、福岡 ヤフオク!ドームでスポンサーゲームを開催しました。試合開始に先立って、抽選で選ばれたお客さまがグラウンドに登場。大勢のホークスファンに見守られながら、選手のみなさんへの花束贈呈や、始球式の大役を果たしていただきました。



3万人を超える観客でにぎわう球場

サンフレッチェ広島を支援

2014年からイズミは、J1・サンフレッチェ広島をユニフォームスポンサーとして支援しています。2016年シーズンからはユースへの支援も開始、次世代を担う若者を応援しています。2016年7月23日には、エディオンスタジアム広島でスポンサーゲームを開催。抽選で当選されたお客さまに、選手への花束贈呈をしていただき、スタジアムは大変盛り上がりしました。



「you me」のロゴ入りユニフォーム

店舗が鉄人レースのゴールに

2016年4月29日から5月1日までの3日間、広島県廿日市市で「ASTC アジアトライアスロン選手権2016/廿日市」が開催されました。スイム、バイク、ランの3種目で全力を出し切った選手のみなさんを迎えるゴールは「ゆめタウン廿日市」の駐車場。お買物にいられていたお客さまも足を止めて声援を送り、鉄人レースの完走者をたたえました。



ゴールになった「ゆめタウン廿日市」

地域に活気を生み経済効果を

行政・市民と連携し協働を 心豊かな暮らしを、多方面からサポート

各地の「味じまん」と産直野菜を販売

「広島味じまん」「熊本味じまん」など、地域の特産品を他の地域のお客さまに紹介するフェアは、毎回好評です。また産直野菜の販売コーナーには、生産者の顔写真と一緒に野菜を陳列。地産地消推進に役かっています。



「ゆめタウン廿日市」の産直野菜売場



広島ならではの味を他県にも紹介する「広島味じまん」

雇用継続へ新店オープン

2017年5月2日、島根県江津市に「ゆめタウン江津」がオープンしました。オープンに先立って2016年9月2日に開催した記者発表で、地元で長年親しまれていた「グリーンモール」様の経営をイズミが継承し、生活利便性の高い店舗をめざすことを誓いました。従業員のみなさまの継続雇用を行い、地元経済への貢献にも努めていきます。



松江市で開催された記者発表の様子

防災・活性化へ行政と協定

地域密着型の店舗運営を行うイズミでは、各エリアの行政と協力体制をとっています。2016年9月1日には山口県と、9月30日には周南市と、それぞれ地域活性化包括連携協定を締結しました。地域社会の活性化と市民サービス向上を図るため、連携を図っていきます。災害時の対応に関する協定も、各地の県や市町と締結。「平成28年熊本地震」に際しては物資提供などに速やかに対応できました。

2017年4月19日には、広島大学と包括的連携協力に関する協定書を締結。購買状況などのビッグデータの共同解析や、脳科学を活用した快適な店作り、インターンシップの受け入れ推進などを行い、広く社会に貢献することをめざします。



山口県の村岡知事(右)とイズミの山西社長



広島大学の越智学長(左)とイズミの山西社長

CSR key person

「地元ならではの」魅力的な味を

2016年9月8日にオープンした「ゆめタウン徳山」の食品売場は、地域一番の鮮度と規模をめざしています。朝とれたばかりの鮮魚、地元で育った季節の野菜や果物など、鮮度の良さが自慢です。地域で愛されている調味料なども積極的に導入し、「地元ならではの」魅力的な味を紹介していきます。

ゆめタウン徳山食品次長 小田原剛さん



期日前投票所を店内に開設

2016年7月2～9日、「ゆめタウン廿日市」に参議院選挙期日前投票所が開設されました。店内各11カ所に案内板を設置し、ご来店のお客さまにアピール。「買物のついで気軽に投票ができた」とお客さまに好評をいただきました。午前10時から午後8時までと受付時間が長かったこともあり、国政選挙の投票率の向上に貢献できました。



期日前投票所を告知

気軽に美術鑑賞 泉美術館

1997年に開館した泉美術館は、洋画、日本画、彫刻などのアートを身近に感じていただける空間です。2012年にリニューアルし、展示スペースを拡大。2016年7月14日から9月4日までは、イズミ創業55周年記念企画写真展「カーブ物語」を開催。広島復興のシンボルである広島東洋カーブの歩みを写真で振り返りました。



「カーブ物語」開催中の様子

店内・店頭で募金に協力

「ゆめタウン」「ゆめマート」では、災害復興支援やよりよい地域づくりに向けた募金に協力しています。「ゆめタウン浜田」では、盲導犬の育成支援のための募金を実施。「ゆめマートうきは」では、飲み物を購入すると売上の一部が寄付される「赤い羽根自販機」を設置しました。



「赤い羽根自販機」



盲導犬育成支援のための募金活動

行政との協定一覧

包括協定	
県名	締結日
広島県	2011年9月6日
熊本県	2011年12月20日
廿日市(広島県)	2015年6月6日
山口県	2016年9月1日
周南市(山口県)	2015年9月30日
広島大学	2017年4月19日

災害時における物資協定	
県・市・町名	締結日
香川県	2005年11月14日
福岡県	2006年3月28日
広島県	2006年10月5日
佐賀県	2006年11月27日
熊本県	2007年1月10日
山口県	2007年1月18日
島根県	2007年3月20日
長崎県	2007年9月21日
菊陽町(熊本県)	2007年2月1日
合志市(熊本県)	2007年6月1日
高松市(香川県)	2007年11月21日
防府市(山口県)	2008年5月22日
瀬戸内市(岡山県)	2008年6月1日
丸亀市(香川県)	2008年11月17日
宗像市(福岡県)	2009年4月1日
大牟田市(福岡県)	2009年9月1日

災害時における物資協定	
市・町・施設名	締結日
熊本市(熊本県)	2010年5月24日
大川市(福岡県)	2011年7月21日
藍住町(徳島県)	2011年11月21日
遠賀町(福岡県)	2011年12月1日
行橋市(福岡県)	2012年2月1日
広島市(広島県)	2012年2月22日
井原市(岡山県)	2012年5月8日
八女市(福岡県)	2013年2月1日
佐賀市(佐賀県)	2013年3月21日
うきは市(福岡県)	2013年4月1日
大竹市(広島県)	2013年9月25日
八代市(熊本県)	2013年8月5日
周南市(山口県)	2014年3月14日
廿日市(広島県)	2015年6月6日
玉名中央病院(熊本県)	2014年6月1日
山口県警察本部(山口県)	2016年10月1日

避難施設の協定	
市・町名	締結日
中津市(大分県)	2011年8月25日
藍住町(徳島県)	2011年11月21日
呉市(広島県)	2012年2月20日
別府市(大分県)	2012年4月27日
大竹市(広島県)	2012年11月27日
福山市(広島県)	2013年7月12日
廿日市(広島県)	2015年6月6日

詐欺被害防ぎ感謝状

2016年12月27日、「ゆめマート美作」店長の末政友敬が還付金詐欺を防いだことで美作警察署から表彰されました。店内のATMで電話をしながら操作をしている70代のお客さまにお声をかけたことが、被害防止につながりました。これまでに「ゆめタウン黒瀬」「ゆめマート松橋」「ゆめマート浜田」でも、親身な対応で振り込み詐欺などを未然に防いでいます。



感謝状を受け取る末政友敬

地域

に活気を生み経済効果を

イズミの4つの夢

テナント様に さらなる 成長の機会を

「ゆめタウン」や「ゆめマート」を舞台に
成功事例を作り、さらなる発展を。
お取引先様、テナント様と
力を合わせてお客さま満足度を高め
ともに成長していきたいと考えています。

dream number **150** 店舗
LECTを輝かせる

オープン前からつながる輪 テナント説明会で信頼関係を

大型ショッピングセンター「ゆめタウン」には、時代のニーズに応えるさまざまなテナント様が入店されています。幅広い世代のお客さまに楽しんでいただける店づくりに向けて、イズミ直営店と一体となって取り組んでいただいています。2017年4月にオープンした「LECT」にも、話題の専門店様が150店舗入店。オープン前から何度もテナント説明会を開催し、採用活動や研修制度など、イズミのサポート体制を説明してきました。小さな疑問にも一つひとつお答えし、オープン前から信頼関係の構築に努めています。



テナント様に
さらなる成長の機会を

交流を深めて
共に前進を

企業・店舗の垣根を越え、お取引先様と共存共栄

「イズミ専門店オーナー会」開催

2016年10月26日、イズミ本社で「イズミ専門店オーナー会」を開催し、29社ものテナントオーナーのみなさまにご参加いただきました。パネルディスカッションや懇親会などを通して互いの知見を交わし合い、共に成長していこうと思いを一つにしました。



パネルディスカッションの様子

イズミ会総会を毎年5月に

お取引先様とイズミの絆を深め、共存共栄をめざす会が、1975年に発足したイズミ会です。2016年5月現在、324社が加盟されています。毎年5月には総会を開催し、よりよい商品やサービスの提供に努め、お客さま満足度を高めていくことを誓い合います。



広島市内で開催されるイズミ会総会

ラジオ局と共同で募金を実施

視覚障がい者を支援する「チャリティー・ミュージックソン」を、広島県、福岡県、香川県の「ゆめタウン」で実施しています。九州朝日放送(KBC)、中国放送(RCC)、西日本放送(RNC)とタイアップし、集まった募金は音の出る信号機の設置などに役立てられています。



店頭での募金コーナー

接客コンテストで技術競う

2016年10月28日、イズミ本社でテナント従業員の皆さまを対象にしたロールプレイングの全社大会「第3回ゆめ1(ワン)グランプリ」が開催されました。1,590名の出場者の中から、地区予選を勝ち抜いた13名が出場。笑顔の接客を披露する白熱の大会となりました。業種によって異なる接客スタイルを学ぶ機会になると、参加者の皆さんには毎年好評をいただいています。



「ゆめ1グランプリ」参加者の皆さん

公正取引勉強会で学ぶ

お取引先様と対等な立場でおつきあひし、信頼を深めていくことは、イズミにとって非常に大切なことです。関連法規である独占禁止法や下請法について総括的に学ぶ場として、担当者向けの「公正取引勉強会」を年に2回開催しています。法令を順守することを基本に、お取引先様とよりよい関係を構築していくために、一人ひとりが真剣に学んでいます。



公正取引勉強会の様子

クリスマス会で交流

「ゆめタウン廿日市」には、200を超えるテナント様が入店されています。従業員の皆さまは普段、交流する機会が少ないことから、2016年11月24日に「テナント会クリスマスパーティー」を開催。234名が集まり、ショップ対抗〇×クイズなどで盛り上がりました。同じ「ゆめタウン」で働く仲間としての団結を強め、今後も協力してよりよい店づくりに取り組んでいきます。



乾杯で団結を強めました

イズミの4つの夢

社員に 人間的成長と やり甲斐を

毎日の仕事に「働き甲斐」を
一人ひとりの将来に「目標」を。

地域への貢献や、お客さまのご満足を誇りに
人間的成長につながる
さまざまな取り組みを実践しています。

dream number

2020年までに
女性管理職比率

20%以上

「ゆめCanプロジェクト」で 女性リーダーを育成

イズミでは2020年までに管理職に占める女性の割合を20%以上にするため、2014年に「ゆめCanプロジェクト」(女性活躍推進プロジェクト)を立ち上げました。育児と仕事を両立しやすい環境を整備すると同時に、研修会などで女性従業員のキャリア形成支援を行っています。

2016年には、安心して職場復帰できるように、産休・育休前に上司と面談する「両立支援プログラム」を導入。また管理職向けに作成した「ワークライフバランスハンドブック」では、妊娠中の部下への配慮の仕方などを紹介し、男性の意識改革も進めています。



女性リーダー育成研修の様子



社員

に人間的成長とやり甲斐を

誰もが活躍
できる環境を

多様な人財がパワーを発揮、組織づくりへ改革

育児・介護の両立支援

1995年からイズミでは「ポジティブアクション」を推進してきました。出産・育児休業制度や看護・介護休業制度は利用者の声を聞きながら改善を重ねています。育児休業は3歳まで、小学校3年生までは育児短縮勤務ができるといった仕組みは、行政からも高評価をいただいています。

制度の整備が進むにつれ、出産・育児休業を取得し復職する社員も増加。職場には自然と「子育てや介護、仕事に奮闘する同僚をカバーしよう」という意識が浸透してきました。助け合いの気持ちで、だれもが安心して働ける風土が醸成されています。

イズミの育児休業制度



「くるみんマーク」取得



「くるみんマーク」は、厚生労働大臣から認定されるマークです。「次世代育成支援対策推進法」に基づいた計画策定と実践を行ったとして、イズミも2017年3月に取得しました。

ライセンス制度が定着

「役職者登用基準の明確化(ライセンス制度)」は、性別に関係なく、高い能力と意欲を持つ人材を役職に登用するための制度です。

主任や次長、店長などへの昇進の資格は、研修を受け、試験に合格することで得られます。正社員だけでなく、パートナー社員も研修とテストをクリアすることで主任に登用される仕組みもあり、多くのパートナー主任が店舗で活躍。「意欲を持って働ける」と好評です。管理職やバイヤーの女性比率も、年々高まっています。

役職名	1999年	2016年
女性管理職	9名	48名(8%)
女性バイヤー	14名	42名(38%)
女性主任比率	26%	44%(880名)

※女性主任は/パートナー社員含む

パート社員活躍で表彰

厚生労働省からイズミは「パートタイム労働者活躍推進企業表彰 優良賞」を2016年1月20日にいただきました。この賞は、パートタイム労働者が活躍できるよう積極的に取り組みを行っている企業を対象としたものです。時間給に反映される評価制度や、研修・キャリアアップ制度の充実など、イズミがパートナー社員向けに従来から導入してきた仕組みを高く評価していただきました。



表彰式に出席した人事部長の竹田裕彦(上段左端)

経験生きる再雇用制度

イズミでは「高年齢者雇用安定法」を受けて、「定年再雇用制度」を設けています。本人が希望する場合、満60歳に達した正社員・パートナー社員は、定年後も65歳まで再雇用される制度です。パートナー社員の時給据え置き制度や、評価に応じた昇給制度など、意欲を保つ仕組みを整備し、多数のベテラン社員が経験を生かして活躍しています。

- 再雇用の条件を撤廃したので、誰でも安心して65歳まで勤務することができます。
- 定年前までのみなさんの頑張りを生かすため、パートナー社員の時給は据え置きます。
- 定年後も評価に応じた昇給を行うので、意欲が高く保たれます!(正社員/パートナー社員共通)

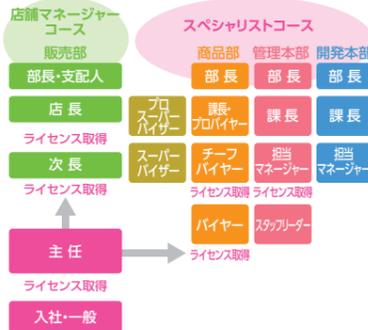
社員 人間的成長とやり甲斐を

イズミの4つの夢

充実の研修で能力発揮へ 意欲が芽吹く、学習の機会をあらゆる人に

キャリアプランを各自設定

イズミでは一人ひとりの目標に応じて、自分でキャリアプランを設定できる人事制度を導入しています。主任やバイヤーなどになりたい人は、研修とテストを受けてライセンスを取得すれば、優先的に配属されるのが特長です。また、目標設定やキャリアアップをサポートするため、上司との面接を定期的に行っています。



講座豊富なビジネススクール

キャリア形成に役立つ自己啓発の場として、イズミビジネススクールを開催しています。講座の内容はリーダーシップ、マーケティング、コーチングなど、仕事に直結するものを厳選。2016年からウェブ上で受講申し込みや受講歴の確認ができるようになり、利便性が向上しています。2016年度は29講座に計約1,094名が参加しました。



店舗運営に生かせる講座を開催

改装で研修センター充実

社員教育の場「イズミグループ研修センター」(広島市南区)の増築・改装工事が2016年10月に完了しました。定員36名の研修室にはテレビ会議システムやプロジェクターなどを導入。受講者が交流を深められるコミュニケーションスペースや、研修の疲れを癒やす浴室・宿泊室なども併せて整備され、快適に研修が受けられます。



リニューアルされた「研修センター」

「ゆめ感動物語」で事例共有

「ゆめ感動物語」とは、パートナー社員が自ら気づき、現場を改革した事例を全社に向けて発表する場です。「競合店対策」「改装後の売上げアップ」「経費削減」など、仲間と協力して実践した工夫の数々はノウハウとして蓄積され、店舗運営に反映されています。



正社員による「ゆめ感動物語」も開始



売場を中心とて働くパートナー社員の皆さんが参加

技術磨くコンテスト

イズミグループでは技術向上をめざし、定期的に各種コンテストを開催しています。鮮魚、精肉、惣菜、青果の各部門では、商品化技術を競う生鮮技能コンテストを実施。食品レジではスピードと正確さ、親身な対応を審査する「チェッカーコンテスト」、衣料品部門では接客力を競う「ロールプレイング大会」を開催しています。



刺し身の商品化技術を競う鮮魚部門

CSR key person

カイゼンの楽しさを広げたい

「日々の仕事の中で、無駄をなくす方法を考え、実践する」「整理・整頓を行い、物を探す時間をなくす」など、仕事のやり方を見直すのが「カイゼン活動」です。実践すれば確実に仕事の効率が高まり、大きな手応えが感じられます。カイゼンの楽しさを従業員全員に広め、業務の「質」も高めていきたいです。

イズミ本社カイゼン推進課長 長久直子



論文コンクール 優秀者を研修に派遣

2016年秋に開催した「創業55周年記念 論文コンクール」では、「感謝」と「2020年の私」をテーマに論文を募集。家族や仲間、お客さまへの感謝の声や、研修に参加して成長したいといった声が集まりました。同年冬には、パートナー社員を対象に「創業55周年特別企画 6,000名のゆめ論文コンクール」を実施。「一人のお客さまとの出会いで、働き方が大きく変わった」など、熱い思いが寄せられました。上位入賞したパートナー社員の皆さんには、ディズニーアカデミー研修を贈呈。約200名の皆さんが「おもてなし」の気持ちを学びました。



入賞者の論文概要を社内報で紹介



ディズニーアカデミー研修の様子



ディズニーアカデミー研修の参加者は、お客さまへの配慮を学びました

カイゼン活動に成果、三行提案も実施

2006年に着手した2S(整理・整頓)活動を深化させ、イズミでは2011年度からトヨタ式カイゼンを推進しています。業務の無駄を洗い出したり、仕事での事故を防ぐ工夫をするなど、より効率よく安全に仕事ができるよう、地道に業務の見直しを実践中です。日頃の気付きを生かしたカイゼンは、すぐに効果を実感できるものが多く、売場スタッフは手応えを感じています。カイゼンのアイデアを短くまとめて提出する「三行提案」は2015年度に始まりました。「使用頻度の低い帳票は発行停止にする」など、優秀なアイデアは全社で実施され、経費削減などに成果を生んでいます。



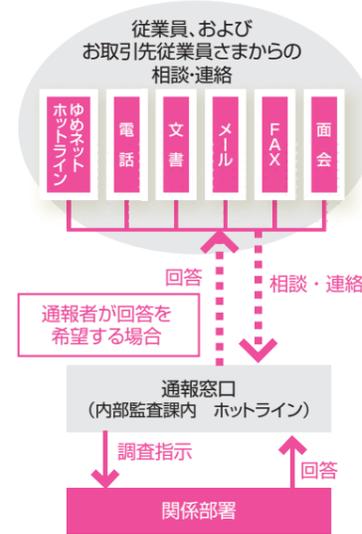
新入社員研修でも「カイゼン」を学びます



社内報で「三行提案」提出を呼びかけ

イズミホットライン

「イズミホットライン」を社内を設置し、従業員やお取引先従業員さまからの相談に応じています。



社員 人間的成長とやり甲斐を

人と緑が響き合う 美しい環境を、明日へ。

企業として社会的責任を果たす上で最も基本的な活動が「環境保全活動」です。社員一人ひとりの自発的な行動やお客さま、地域のみなさまとの協力で循環型社会の構築をめざしていきます。



緑豊かな癒やしの空間をめざす「LECT」

1 設備を刷新する

設備の工夫で環境負荷低減

イズミでは、新店オープン時やリニューアル時に、消費電力を削減する設備の導入を進めています。設備面を工夫するメリットは、お客さまに「暗い」「暑い」「寒い」といったご不便を感じさせることなく、従業員も普段通りの業務をしながら、省エネを推進できることにあります。

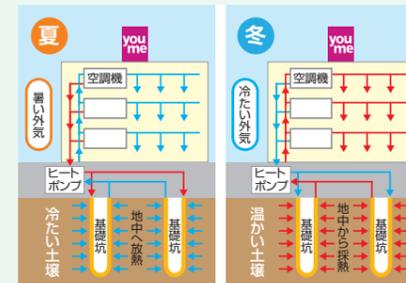
「ゆめタウン廿日市」では、年間のエネルギー使用量を限りなくゼロに近づける活動を実践。使用量のデータを集め、効率よくエネルギーを消費・使用量削減するシステム「BEMS」も導入しています。店舗でノウハウを蓄積し、さらに効果的な省エネが行えるよう、取り組んでいます。

太陽光発電 「ゆめタウン廿日市」に

2015年にオープンした「ゆめタウン廿日市」は、「ゆめタウン」初の試みとして、屋上で太陽光発電を行っています。350kW発電パネルを約2,900㎡の規模で設置することで、小型のスーパーマーケット1店舗分に相当する電気の発電が可能になりました。太陽光という自然エネルギーを有効活用し、二酸化炭素の排出量削減に貢献しています。



屋上に発電パネルを設置



地中熱ヒートポンプの仕組み



特別感謝状をいただきました

地中熱を生かした省エネ空調

地中熱ヒートポンプは、外気温と比べて室内との温度差が小さい地中熱を利用し、空調にかかるエネルギーを削減するシステムです。「ゆめタウン廿日市」では空調使用率が高いエントランスに導入しています。2016年には環境保全に貢献したとして「一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター」から特別感謝状を贈られました。

LEDや有機EL照明導入

消費電力の少ないLED照明を導入し、さらに時間帯ごとに店内照度を自動制御するスケジュール調光システムを用いて、消費電力を抑制しています。また、次世代の照明として期待される有機EL照明を「ゆめタウン廿日市」で試験採用しています。



授乳室に設置した有機EL照明

環境にやさしいイズミ本社

イズミ本社ビルの屋上には、太陽光発電パネルの設置に加えて緑化を行い、建物の熱負荷軽減に寄与。ビル中央部の開放的な吹き抜けは、自然換気を行い空調の運転を減らす役割を担うなど、館内各所で環境への配慮を実施しています。



緑化を行った本社ビル屋上

2 店舗で改善する

多様に消費エネルギー削減

イズミでは店舗運営のさまざまな場面で、環境負荷の低減に取り組んでいます。例えば物流センターから店舗への商品配送。積み込む荷物を見直して効率をよくしたり、段ボール箱の代わりに繰り返し使える「通い箱」を使ったりと、日々の業務の中で地道な努力をしています。食品売場

では魚のあらや野菜くず、廃油などを分別管理し、ごみとして捨てられていたものを肥料に再生。資源として有効利用しています。従業員の意識を変えることも欠かせません。クールビズに取り組んだり、店舗の消費電力に注意を払ったりして、環境保全への意欲を高めています。



節電型の冷凍食品ショーケース

一元管理の冷蔵・冷凍ケース

食品の冷蔵ショーケース・冷凍ショーケースは、おいしさと品質を守る大切な役割があります。イズミでは、消費電力を抑えつつ、適切な庫内温度を保つために「インバーターエコシステム」を採用。一元管理で全てのショーケースの庫内温度を監視し、常に最適運転を行うことで消費エネルギーを抑制しています。



見やすい陳列と省エネを両立



野菜の鮮度を守る冷蔵ケース



冷凍食品の品温をキープ

意識付けに有効「見える化」

「ゆめタウン廿日市」では、太陽光発電の発電状況やリサイクル情報をお知らせするエコステーションを設置しています。「見える化(可視化)」で、お客さまに環境問題保全に関心を持っていただければと考えました。イズミ本社でもリアルタイムで消費電力量などが見られるパネルを設置し、従業員の意識付けを行っています。



「ゆめタウン廿日市」のエコステーション



イズミ本社のパネル

商品配送でも省資源活動

運輸部門の消費エネルギー削減も推進しています。2015年に完成した「イズミ広島物流センター」(広島市西区)に4つの配送センターを統合、ドライ商品とチルド商品と同じ車両で運ぶことにより輸送車台数を大幅に削減できました。従業員は繰り返し使えるプラスチック製の折りたたみコンテナ「通い箱」を活用し、省資源に努めています。



「イズミ広島物流センター」

食品廃棄物を再生

魚のあらや廃油、野菜くずなどの食品廃棄物を分別管理し、リサイクルに努めています。2016年度は40.1%(3,382t)が再利用されました。熊本県内の店舗では、専門業者の株式会社熊本清掃社様に委託。食品廃棄物は肥料に再生され、田畑で使われています。廃油は福岡県の株式会社フチガミ様で、バイオディーゼル燃料に生まれ変わっています。



食品リサイクルの(株)熊本清掃社様

(株)フチガミ様に廃油再生を委託

「クールシェア」で夏の節電

公共施設や小売店などで過ごすことで、ご家庭のクーラーを消して節電につながる運動が「クールシェア」です。イズミは2012年から参加し、2016年は広島県内の31店舗が協力店として登録。割引クーポンを発行し、お客さまにアピールしました。



50円引きのクーポンを発行



「クールビズ」特設売場

空調のエコにクールビズ

「クールビズ」は、涼しい衣類を着用して冷房の設定温度を上げる取り組みです。イズミ社員も実践し、夏期は上着、ネクタイなしで業務を行っています。店舗では「クールビズ」コーナーで、お客さまに機能的でおしゃれな衣類をご提案。冬には暖房の設定温度を下げる「ウォームビズ」の浸透へ、温かい肌着などを展開しています。

電気自動車の充電スポット

次世代の自動車として、期待が集まる電気自動車。外出先で充電が必要になるケースもあり、各地で充電スポットの整備が進められています。イズミでは公共性の高い店舗を運営する立場から「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン博多」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン徳山」などに設置しています。



「ゆめタウン徳山」の充電スポット

3 地域と協力する

お客さま・地域と省資源活動

イズミでは行政や環境保全を推進する団体のみならず、その連携を進めながら、環境保全に取り組んできました。店頭回収ボックスや古紙回収ステーション「エコ・ステ」は、お客さまに負担をお掛けせずリサイクルを進められる設備です。また、お買物袋持参運動には20年以上継続

して取り組み、2016年度の持参率は64.3%と6割を超えるほどお客さまに浸透しています。ご希望の方のみにレジ袋を有償で配布している広島県や山口県、大分県、出雲市、熊本市などでは、その収益金を地元に還元中です。今後も継続して、確実に省資源活動の輪を広げていきます。

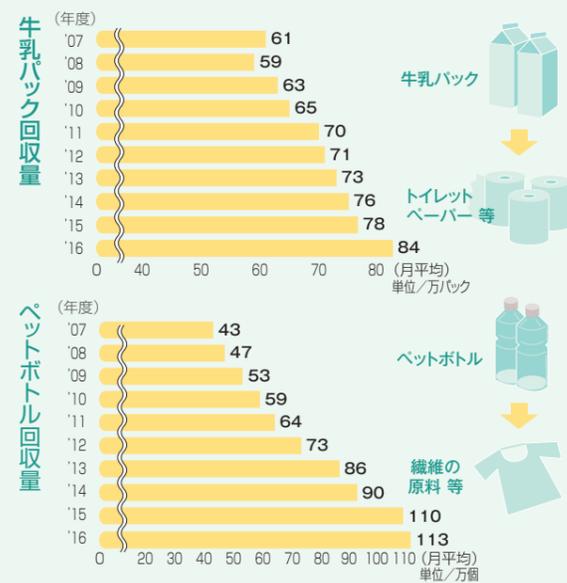
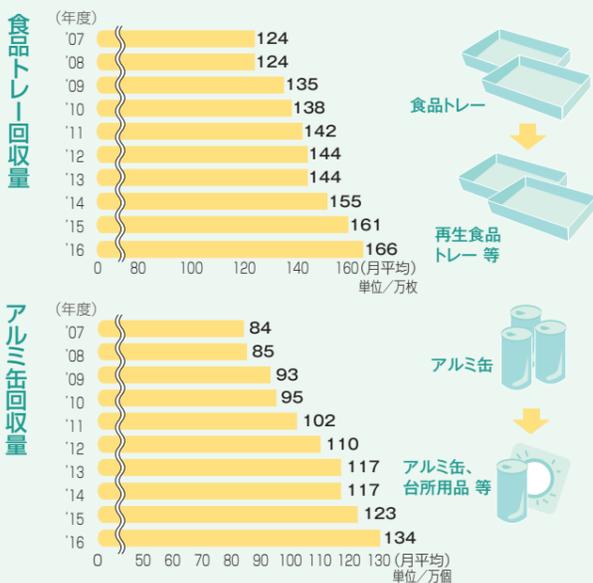


食品トレーなどを入れる回収ボックス

回収ボックスで省資源活動

「ゆめタウン」「ゆめマート」全店の店頭には、牛乳パックや食品トレー、ペットボトル、アルミ缶などの回収ボックスを設置しています。お買物のついでに気軽にトレーなどをご持参いただける、地域のリサイクルステーションとして好評です。リサイクル意識の高まりを受けて省資源活動への参加者が増え、回収量は年々増加中です。

店頭での容器回収量



お得な回収ポイント「エコ・ステ」

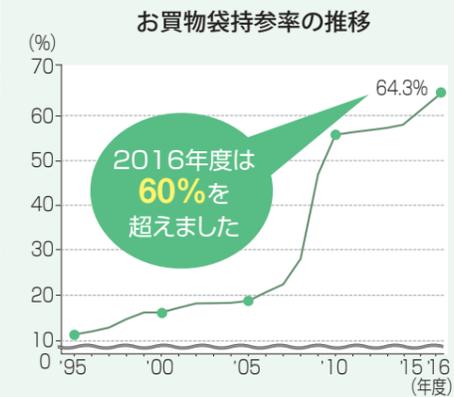
お買物の際に新聞や雑誌などの紙類をご持参いただき、その重量に応じてポイントを差し上げるのが古紙回収ステーション「エコ・ステ」です。ポイントがお買物に利用できる「お得なリサイクル活動」としてお客さまに人気です。2010年から導入をはじめ、現在では59店舗に設置されています。「ゆめタウン徳島」ではスチール缶も回収中です。



駐車場に設置された「エコ・ステ」



ギフト売場でエコ包装を紹介



レジ袋や包装資材を削減

イズミではギフト売場で、のし紙や包装紙などを省略したエコ(簡易)包装を推進しています。お客さまのご協力を得て、2016年度は夏のギフト71.8%、冬のギフト73.2%に広がりました。レジ袋の削減には、各地の行政や市民団体と共に取り組んでいます。20年以上継続して呼び掛けを行い、現在では、お買物袋持参率は6割を超えています。

はつかいち環境フェスタ2016

2016年10月2日に「はつかいち環境フェスタ2016」が開催されました。会場は「ゆめタウン廿日市」に隣接した「ゆめ桜公園」。多くの企業や団体が出展し、参加体験コーナーやリサイクルマーケットなどに多数の市民が来場されました。店内でも環境啓発ポスターなどの展示や表彰式が行われ、楽しく省エネ意識を高めました。



多数の参加者でにぎわう会場



廿日市発祥のけん玉体験コーナーも

環境美化へ各地で清掃活動

各地の店舗やイズミ本社周辺で、従業員の自主参加による清掃活動を行っています。空き缶やタバコの吸い殻などを拾い、環境整備に貢献。行政や市民と一緒に、清掃デーなどにも継続的に参加しています。2016年にオープンした「ゆめタウン徳山」の従業員も、近隣の公園で清掃を行うなど、地道に取り組んでいます。



「ゆめタウン徳山」従業員が清掃

不要な衣料品を引取り

お客さまが着用しなくなったシャツやジャケットなどを、最大10点までお引取りするキャンペーンを開催しました。不要な衣料品をご持参くださった方には、500円分のクーポン券を3枚贈呈。お預かりした衣料品はリユースやリサイクルなどで有効活用しました。



たくさんのお客さまが参加

業務の基本 コンプライアンス規定

社会的責任を果たすため、指針を浸透させていきます。

社会的責任を果たすための基本方針

1) 将来への成長・飛躍をめざして、変化への対応・挑戦・スピードのある経営を推進・実践していきます。そのために、地域の生活文化の中心として、夢づくり・街づくりをテーマに企業活動を行い、店舗展開することを社会的責任を果たすための使命とし、地域のよさを最大限に生かしながら、地域一番店をめざします。

2) 企業活動では、コンプライアンス経営を基盤とし、お客さま・地域社会・株主のみなさま・お取引先様との信頼関係の構築に努めます。

3) 役員および社員は、地域への貢献を誇りとし、人間的成長につながるやりがいを生み出し、お客さまに喜んでいただけることを生きがいとして、地域のみなさまの声を店舗に反映していきます。

1 法令を遵守して業務を遂行

イズミグループでは、法令を遵守しながら日々の業務を行うよう、「行動憲章」を制定。コンプライアンス・リスク管理委員会を中心に、全社員で学習を進めています。

【イズミグループ行動憲章】

- 1 社会にとって有益かつ安全な商品とサービスを提供し、お客さまの信頼と満足を確保します。
- 2 自由競争のもと、公正な取引に努めます。
- 3 顧客情報、内部情報が適切に管理される体制を構築します。
- 4 株主はもとより社会に対して、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
- 5 自然(地球)環境に配慮した行動に努めます。
- 6 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、断固として対決します。
- 7 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律を遵守し、文化や習慣を尊重して、その地域の発展に貢献します。
- 8 創業の精神に則り、お互いを尊重し、謙譲の気持ちをもって行動します。
- 9 国内外の法律を遵守し、社内規則ならびに社内規範・企業倫理等のルールに従い、「人としてやってはいけないこと」を判断できる誠実な企業人をめざします。
- 10 経営トップは本憲章の精神を実現するため、社内外の声に耳を傾け、遵法文化形成のために社内体制の整備を行います。

2 個人情報保護を徹底

店舗などでお預かりしたお客さまの大切な個人情報を守るため、イズミグループの社員ならびにお取引先様と、共通の指針に沿って取り組んでいます。

【イズミのプライバシーポリシー】

- 1 弊社がお客さまからいただいた個人情報、ダイレクトメールなどの宣伝物の送付、商品・催事情報のご案内、アフターサービスなどに利用させていただきます。
- 2 弊社は、個人情報の取り扱いに当たっては、漏えいなどがないように安全管理に努めます。
- 3 弊社は、お客さまの個人情報を第三者に提供する場合は、お客さまから同意を得ます。ただし、法令などに基づく場合などの正当な理由がある場合は除きます。
- 4 弊社は、個人情報の取り扱いに関する業務を委託する場合は、委託先が個人情報の保護と安全管理を行うように監督に努めます。
- 5 弊社は、個人情報の取り扱いについては必要に応じて随時改善、変更を行うことがあります。
- 6 弊社は、お客さまから個人情報の開示、訂正等を求められたときは、合理的な範囲ですみやかに対応いたします。

3 エコ活動実践の指針

イズミでは、グループ社員全員で環境への取り組みを共有するため、環境理念・環境方針を定め、共に学び、共に業務の中で行動に移しています。

【環境理念】

イズミは、環境問題への取り組みが社会的責任を果たす最も基本的な活動と考え、地球市民として使命感に基づき、社員一人ひとりが自発的に行動し、環境保全活動の実践に努めます。さらに地域のみなさまと協力し、環境負荷の軽減と循環型社会の構築をめざしていきます。

【環境方針】

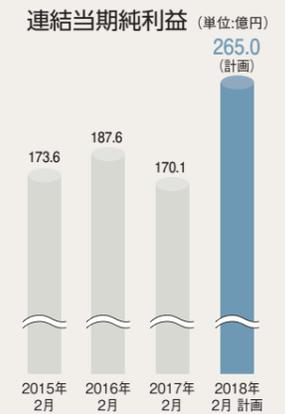
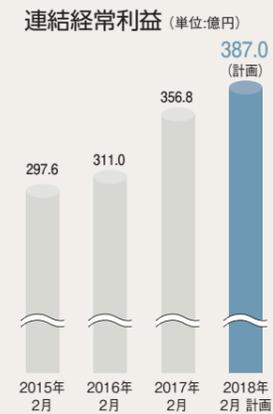
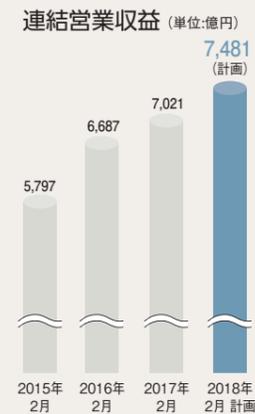
イズミは、企業理念である「お客さまの満足度No.1」を基本に、商品やサービスおよび店舗づくりを通じて環境保全への取り組みと、地域周辺の自然・環境との調和に努めます。また、環境保全活動を通じて、お客さまから信頼される企業をめざします。

- 1 環境に配慮した安全安心な商品・サービスの提供に取り組みます。
- 2 環境に配慮した店づくりをめざし、省資源・省エネルギーに取り組み、廃棄物排出の抑制、リサイクル活動に努めます。
- 3 再生素材を推進し、環境への負荷が少ないものの購入および使用を行い、資源の有効活用を努めます。
- 4 地域のみなさま・行政と協力し、環境保全活動を推進し、社会貢献に努めます。
- 5 社員一人ひとりが環境に配慮した取り組みの実践および継続的な改善に努め、環境に関連した法規制を遵守します。

株主・投資家の皆さまとの対話

適時かつ適切な情報発信と利益配分に努めています。

イズミグループ業績概要



◆株主優待制度による利益還元

イズミでは、利益成長に応じた1株当たり配当金(2017年2月期計画:66円)に加え、地域のお客さまにも株主になっていただきたいという思いもあり、お手軽・お得にお使いいただける株主優待券を贈呈しています。2011年2月より、「ギフト券」もお選びいただけるようになりました。また、泉美術館(広島市)ご招待券の贈呈も行っています。

◆グループ企業によるシナジー効果を追求

イズミグループは小売業を中核に、カード事業や外食事業、店舗施設管理事業、食品加工事業、不動産事業などを展開しています。株式会社ゆめカードは、電子マネー「ゆめか」の会員数を増やし、株式会社イズミテクノは公共施設の指定管理者として実績を高めるなど、各社が成長を続け、互いに補完しながらシナジー効果を生んでいます。

◆IR情報の積極的公開

年2回の決算説明会開催に加え、随時情報公開に努めています。イズミホームページでは、決算説明資料、月次売上、株価情報等を掲載しています。また、海外の投資家のみなさま向けの海外IRも行っています。



相互に補完しあうイズミグループをホームページで紹介



毎月更新する「月次売上」



ポイントを押さえた「報告書」

ご所有株式数	一回当たりの贈呈額	
	株主優待券の場合	ギフト券の場合
100株以上	10枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	15枚 (3,000円相当)	
300株以上	20枚 (4,000円相当)	
400株以上	25枚 (5,000円相当)	
500株以上	30枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	50枚 (10,000円相当)	2,000円相当
2,000株以上	100枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	150枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	200枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	250枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	300枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	400枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	500枚 (100,000円相当)	

※「株主優待券」は、2,000円以上お買い上げにつき、2,000円ごとに各1枚(200円券)をご使用いただけます。対象店舗はイズミ全店、ゆめカード、スーパー大栄、ユアーズ、その他
※上記とは別に、財団法人泉美術館ご招待券を送付

コーポレート・ガバナンス体制

企業統治を充実・強化し、信頼度を高めていきます。

1) 基本的な考え方

お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図ること、株主やお取引先様、社員などのステークホルダーのみならず、ご期待にお応えしたいと考えております。同時に、高い倫理観をもって社会的責任を果たしつつ、地域社会へ貢献します。

このような理念のもと、経営組織や諸制度を整備し透明性・公正性を高めることを重要な課題の一つと位置づけております。そして、取締役会の監督機能の強化、財務の信頼性の確保、業務の有効性と効率性の向上に取り組んでいます。

2) 業務執行、監査等の状況

当社は監査役会設置会社であり、取締役8名(うち社外取締役2名)ならびに監査役3名(うち社外監査役2名)で構成し、取締役会は原則として月1回開催し、充実した審議と取締役の職務執行に関する監督が行われています。取締役会においては、監査役に対して取締役会議案に対する客観的な意見を求めるとともに、監査役が取締役の意思決定および業務執行状況の監査をしています。

また、取締役8名の中から代表取締役1名を選定し、代表取締

役の下に執行役員7名を選任して業務執行にあたらせており、各取締役および執行役員における経営方針等に関する施策に対する報告・意見交換は毎週1回の経営会議において実施しています。当社グループ会社の経営状況につきましては、月1回の連結評価会議および実績検討会において、各グループ会社の社長を招集して各社の経営チェックを行う体制をとっています。

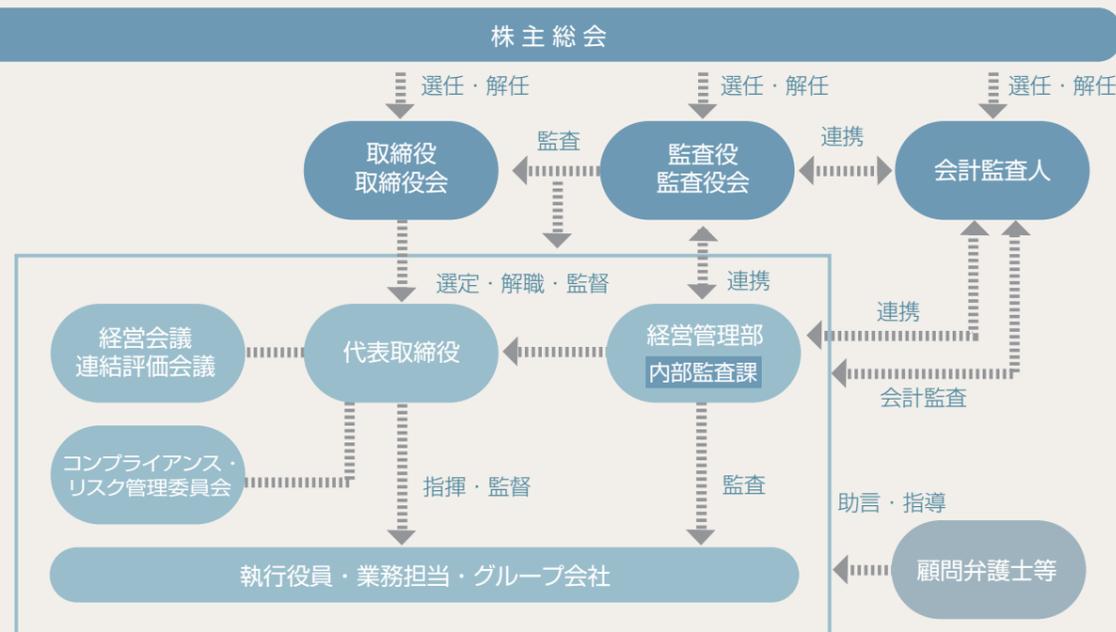
さらに、適正かつ効率的に経営監視機能を行うために、4名の顧問弁護士による経営に関する助言・指導をいただいています。

3) 内部統制システム・リスク管理体制の整備状況

内部統制システム・リスク管理体制の整備状況につきましては、次のとおりです。

■各事業本部とは独立した経営管理部が主管となってコンプライアンス・リスク管理委員会を毎月1回開催し、当社各部門ならびにグループ会社から選出されたコンプライアンス・リスク管理委員出席の下、当社グループ全体のコンプライアンス教育およびリスク管理のモニタリング活動報告について審議しています。当委員会の議事内容については、取締役および監査役に報告しています。

業務の執行・監査および内部統制の仕組み



■イズミグループ行動憲章を定め、当社およびグループ会社の取締役・従業員の行動規範として、事業活動における法令遵守に努めています。また、法令遵守の徹底・意識向上のため「イズミホットライン」(内部通報制度)を設置し、当社およびグループ会社からのさまざまなリスク発生の未然防止に努めています。

■事業活動において生じたさまざまなリスクへの対応については、お客さまの安全確保、被害の最小化を主たる目的として、全社連絡体制を整備して対応しており、地震等の災害時においては直ちに緊急対策本部(本部長は代表取締役社長)が設置される仕組みとなっています。

リスクマネジメント・内部統制教育

社員への教育を積極化、意識変革を進めています。

イズミでは、従来から内部統制に関する取り組みを進めてきました。2011年には「夢のある『1兆円企業』をめざす」という大きな目標の実現に向け、1兆円企業にふさわしい信頼を得るために、内部統制に関してもより一層の浸透を図っています。具体的には、以下のような取り組みを行っています。

第一に、会社内で起こりうるリスクについて主管部署が洗い出し、その対応策を検討し、現場で実施しています。また毎月1回開催される全社的なコンプライアンス・リスク管理委員会に各部署の委員が出席し、コンプライアンスに関する教育や情報の共有化を実施したり、さまざまなリスクへの対応策を検討・協議しています。

また、同様にグループ会社を対象としたイズミグループコンプライアンス・リスク管理委員会を設置し、イズミグループ全体の内部統制を強化しています。

第二に、内部統制の根幹であるコンプライアンスの徹底のために、その重要性を経営者自らが全社的な会議の場でメッセージを発信し続けています。また、従業員に対するコンプライアンス教育を、社内の重要な研修カリキュラムの中に組み入れています。

さらに、従業員全体のコンプライアンスに対する意識を高めることを目的として、毎月その時々タイムリーなテーマをもとに、業務上必要な法律知識の解説を分かりやすくまとめた社内教育資料を、コンプライアンス教育担当部署が毎月作成して店舗や本社の各部署へ発信しています。

イズミがお客さまや地域に信頼される企業であり続けるために、今後も全社員で取り組みを行い、コンプライアンス経営を推進してまいります。

コンプライアンスについて勉強会を開催





会社概要

(2017.2.28現在)

会社名	株式会社イズミ
本社所在地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資本金	196億1,385万円
設立	1961年10月27日
従業員数	正社員 2,446人 パートタイマー 5,542人(1日8時間換算)
店舗数	105店舗(エクセル単独店舗の店舗含む)
店舗地域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、 大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事業内容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャндаイジング・ストア(GMS)、スーパーマーケット等の業態による衣料品、 住居関連品、食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他



you
me

作成部署およびお問い合わせ先

株式会社イズミ 顧客サービス部

〒732-8555 広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号

TEL 082-264-3211(代) URL <http://www.izumi.co.jp/>